

平成 23 年 3 月期第 2 四半期連結決算発表

平成 23 年 3 月期第 2 四半期連結業績は、食品部門、バイオ部門ともに増益

当期におけるわが国経済は、政府の景気対策効果等で一旦は回復基調に転じたものの、後半は急激な円高や世界経済の減速により、景気低迷という厳しい状況となりました。また、雇用情勢は好転の兆しが見られない状況が続きました。

当社グループを取り巻く環境は、少子高齢化、人口減少というマイナス要因に加え、消費者の節約志向や低価格志向が続いたうえ、猛暑等の天候不順により穀物相場が上昇する等、厳しい状況にありました。

このような状況の下、食品部門は積極的な新製品提案や新規顧客開拓努力により、コア事業であるイースト、フラワーペーストに加え、総菜、パン品質改良剤、粉末かんすいの出荷が好調で、売上は前年を上回りました。

バイオ部門は、バイオ事業を「研究・創薬支援事業」と位置付け、一貫した研究開発支援サービスを積極的に展開しました。その中で、診断薬原料、抗体開発・生産、遺伝子改変及び発現サービス、細胞培養用である培地・血清・エキス、実験動物の売上が好調でした。しかしながら昨年 10 月の養魚飼料事業譲渡の影響により、売上は前年を下回りました。

この結果、当期の売上高は、317 億 90 百万円(前期比 99.9%)、経常利益は、原材料相場が昨年来の水準で安定して推移したことや、コスト低減努力により 14 億 49 百万円(前期比 106.7%)、四半期純利益は 7 億 32 百万円(前期比 105.8%)となりました。

平成 23 年 3 月期 連結業績予想

食品部門は、国内食品市場での消費者の低価格志向が今後も続くものと思われま。一方、猛暑等世界的な天候不順により、穀物相場の上昇が懸念されます。このような状況の中、新製品の開発と上市を推し進めるとともに、提案型営業による積極的な拡販活動を展開し売上の伸長を目指してまいります。また、生産面におきましては品質保証体制をさらに強化し「安全・安心な製品作り」に努めてまいります。

バイオ部門は、医薬品業界のジェネリック医薬品の拡大、薬価改訂をはじめ、医療制度の抜本的な見直し等がバイオ部門の業績に少なからず影響を及ぼすことが予想されます。当社はバイオ事業を「研究・創薬支援事業」と位置付け、医薬品業界や研究機関を取り巻く事業環境の変化に柔軟に対応するとともに、遺伝子組換え技術を利用した酵素の開発やアレルギー検査・残留農薬の食品検査・分析サービスの業容拡大を推進してまいります。

海外におきましては、食品部門は日清製粉グループとのシナジーにより、アジア地域において事業展開を進め、特に中国においては共同出資会社である東酵（上海）商貿有限公司を中心に、製パン、製菓及び製麺市場向けの拡販を推進してまいります。バイオ部門は海外子会社を拠点に、BRICS 諸国への拡販を目指してまいります。

連結業績予想につきましては平成 22 年 7 月 14 日に公表しました「業績予想の修正に関するお知らせ」に記載の業績予想に変更はございません。

以上